

サクラの栽培品種は数が多く、300以上 サクラの栽培品種は数が多く、300以上 かある一方、異なる名前でも同じ形質をもつものがある一方、異なる名前でも同じ形質をもつものがある一方、異なる名前が誤用されていること よって、不適切な名前が誤用されていること もあります。こうした同名異種、あるいは異名同種といった混乱が生じていると、栽培品種を適切に利用することが出来ません。では ばよいのでしょうか。現在、国立遺伝学研究ばよいのでしょうか。現在、国立遺伝学研究がある。 せ丹、(写真1)を例に かって考えてみましょう。

です。というのも、明治時代になって人々のです。その原木と比較することで、正しくそです。その原木と比較することが出来ます。の栽培品種の多くは本来の原木が失われていますが、100年前までは遡ることが出来ます。の栽培品種の多くは本来の原木があるはずれますので、増殖元となった原木があるはずれますので、増殖元となった原木があるはずれますので、増殖元となった原木があるはずれます。というのも、明治時代になって人々のです。というのも、明治時代になって人々の

图 主任研究員 勝木 俊雄

で た ど ス

写真2 江北村に集められた「荒川コレクション」のサクラ (Miyoshi 1916)

16. P. serrelate Lavat. f. Montes sec. force (PL XL Fig. 48) Birmer, The plant world of Japan to Ft.

Riema, To plat with of Japan a 16.

Kleiner Rama mit ampolaritoter, flacher Krone. Zweig gran bis beamt. Jamps Hillier Inicht brann. Hint ellipticch bis en 13 (8.5 cm, 28ptin) en 2.5 cm. Servier delafelt, Zünders fein myspitat. Nervanpare en 11. Stiel en 3 cm. 2-drieig. Histochappen bis en 20:0 mm. Inflorensem in 3-5-blidigen Deblemmaben. Bei 4-blidigent, geneinsamer Stiel I en 1 cm., I. Bütensteil en 1.5 cm, geneinsamer Stiel II en 2 mm. III. Bütensteil en 1.4 cm., geneinsamer Stiel III en 2 mm. III. Bütensteil en 1.2 cm., III. Bütensteil en 2.2 cm., IV. Bütensteil en 3.2 cm., IV. Bütensteil en 3.2 cm., IV. Bütensteil en 3.3 cm., geneinsamer Stiel III en 5 mm. III. Bütensteil en 3.5 cm., geneinsamer Stiel III en 5 mm. III. Bütensteil en 3.5 cm., geneinsamer Stiel IV en 2 m., IV. und V. Bütensteil en 2.5 cm., geneinsamer Stiel IV en 2 m., IV. und V. Bütensteil en 2.5 cm., geneinsamer Stiel IV en 2 m., III. Bütensteil en 2 m., IV. und V. Bütensteil en 2 m., geneinsamer Stiel IV en 2 m., IV. und V. Bütensteil en 2 m., IV. und V. und V. Bütensteil en 2 m., IV. und V. und V. Bütensteil en 2 m., IV. und V. Bütensteil en 2 m., IV. und V. Bütensteil en 2 m., IV. und V. und V. und V. und V. und V.

図1 Miyoshi (1916) に記載されている '牡丹'



写真3 国立科学博物館に保存されている「荒川コレクション」の '牡丹' の標本

葉や萼などの形態について詳細に比較するこ とが必要です。三好教授は残念ながらほとん 培品種と識別するためには、 よその形態は判ります。 この記載により、本来の 三好学教授が学術誌に発表した文章と図です。 |荒川コレクション」にもとづき、東京大学の 本来の 牡丹 しかし、 牡丹 の標本を用いて、 これだけでは不 の花のおお よく似た栽

が現代に残されているのです。 が学術的に命名・発表されており、 植えられた多くのサクラ栽培品種

図 1 は

、牡丹、という栽培品種について、

されたのです。この

「荒川コレクション」

(写真2) その資料

の江北村

(現足立区)の荒川堤に収集、

植栽 に

関心が薄れたことから消失の危機に瀕した江

戸期のサクラ栽培品種が、130年前に東京

野富太郎博士が残した ど記載のもととなった標本を残していませ れた標本が国立科学博物館などに保存されて ます たところ、 この結果、 同時代に牧野富太郎博士によって採取さ (写真3)。 同じ形態であると判断されま 遺伝研のサクラは正しく栽 遺伝研の 牡丹 牡丹 の標本を比較 牧

品種の、牡丹、と考えられるのです。